

“まなざし”を少し変えるということ

インフルエンザの流行が始まっています。手洗いやうがい、体調管理にはくれぐれも留意してください。

先日、通勤の電車内で、ヘルプマークをかばんに付けている方を見る機会がありました。また、ランドセルにヘルプマークをついている小学生を見る機会もありました。みなさんは、ヘルプマークを知っていますか。

ヘルプマークは、外見からはわからないような支援を必要としている方々が、援助や配慮を得やすくなるよう、作成されたマークです。2012年、東京都で配布が始まりました。現在、すべての都道府県に広がっています。

心身に障がいを抱えておられて、外出することに不安や心配を感じている人、またその家族の方々は、大勢おられるはずです。人が何に困っているか、また、何に困ることが予想されるかは、まわりからは、気づくことが難しいものです。こうしたマークを通して、注目されやすくなり、まわりの人たちのまなざしも変わってくることでしょう。

けれども、ヘルプマークが全国で配布されているといっても、ほんの一握りの方々が利用しているにすぎません。

安心して過ごせる社会とは、誰もが、困ったときに、いつでも、どこでも援助を求めやすい社会のことです。気づき合える人たち、声を掛け合える人たちが集まって、より安心で、より幸せに生きることができる社会が実現していくでしょう。

本年度、田辺中学校の生徒たちが、しんどそうにしている人、困っている人に気づいて、声をかけ、援助してくれたことに、感謝の声が寄せられるということがありました。それを聞いて、とても嬉しく思いました。

「まなざし」を少し変えてみることで、「気づき」が生まれる、「気づき」が生まれると「行動」が生まれる。「行動」が生まれると、「安心」が育まれていくのではないでしょうか。このようにして、社会が、誰にとっても、居心地がよく、過ごしやすいものになると思います。

まずは、「まなざし」を少しだけ変えてみて、「小さな気づき」「小さな行動」を大切にしていってほしいと思います。

※全校集会での講話の内容に加筆・修正しています。